



文庫8
E 237
2

英五大學
長崎師範學
校圖書之印

取消印

同書

日耳曼史畧卷二

第四編

少助教後藤達三 譚

甲利泰甫ノ薨去ヨリ日耳曼ニ於テ帝國

ノ號ヲ唱フルノ初メニ至ル事

嵯峨天皇弘仁五年ヨリ
醍醐天皇延喜十二年ニ至ル
紀元八百十四

問 甲利泰甫ノ創造シタル大國如何シテ衰運ニ

日耳曼史畧 卷二 大學南校

赴^キタルヤ

荅甲利恭甫數年肝膽ヲ碎キ梯風沐雨ノ勞ヲ
 積テ創立シタル大國モ八百十四年ノ時ニ當
 リ皇帝ノ薨去ト共ニ其國忽チ衰ニトスルニ
 至ル其故如何トスルニ皇帝ノ世嗣ナル路^{ロイ}易^ス
 テボン子ルニハ其三人ノ男子^{長ヲロガリ}次ヲペエ^ピ
 易ト云フ路ノ為メニ皇帝ノ開擴シタル大國ヲ
 割ヒテ封セシカハ之カ為メニ一ニ歸スルノ
 主權分レテ三トナリ遂ニ嫉妬偏執ノ心ヲ抱

キ兄弟ノ間ニ不和ヲ生シ戦争絶エザリシヨ
 リ國勢次第ニ微弱ニ至レリ

問日月曼時勢ノ隆替如何ナリシヤ

荅甲利恭甫薨去ノ後凡ソ一百年間ノ日國史
 ニ載ル所騷乱ノ事ノ多シ是全ク政治ノ紀
 綱紊乱スルト甲利恭甫ノ後嗣等之ヲ治ルノ
 器量無キトニ依レリト既ニ甲利恭甫在世ノ
 中ト雖モ强悍ナル貴族ノ暴行ヲ悉ク平定ス
 ル能ハサリシニ今暗弱ナル人君ノカトシテ

之ヲ降服セシテハ實ニ難カル可キトトス

問甲利泰甫カ後嗣等ノ政治ノ景況如何アリシ

ヤ

答此頃日耳曼ハ凡ソ六ヶ國

國名後ニ出スニ分故ニ此ニ畧ス

レ毎國ノ領主ヲヂユーク

公爵ト稱シ各其國ヲ

管領シテ國事ヲ處分ス次ヲコオント侯ト云

フ其中ニマルグラフ官名ト云フ者アリ專ラ各

國境界ノ守衛ヲ掌ル又ラ官名ントグラフ官名ト

云フ者アリテ敵國外寇ノ侵入ニ方テハ國々

ノ内部ヲ防禦スルヲ務ム此コオントノ如キ

皆一城ノ主タリト雖モ何レモヂユークノ臣

下ナリ又之ニ附属スル衆多ノ臣下アリシカ

唯家臣ノ名義ノミニシテ其實ハ法令ヲ無之

スルノ輩ナリ又其他ニボルグラーフ官名ト云

フ者アリケルカ其餘ノ貴族ニ異ナラス上ヲ

畏レス下ヲ憫マス常ニ日夜ノ差別無ク縱ニ

暴動掠奪ノ所業ヲ為シ遇皇帝此貴族ノ家ニ

來臨スルト有リタルヨリ別ニ行宮ヲ設ケア

日印野史略 卷二 三 大學南校

リシカ時トシテ之ヲ掠徒ノ巢窟ニ充ルカ如キ甚シキ悪行アリ総テ此頃日國貴族ノ從者ニ於テハ唯貴人ヲ推シテ首謀ト為シ非議ヲ行フヲ以テ盜賊ノ徒黨ヲ結ヘル者ト此モ異ナルト無シ

問日耳曼ノ内六大國ト稱スルハ何ノ國々ナルヤ

答前ニ述ヘタル日國ノ六國トハ即チ薩沙泥巴華里蘇亞維亞佛郎哥尼亞亞ツウレエンジヤバハリヤスワビヤフランコニヤ

ロルライン等是ナリ此等ノ國々ニ於テモ恰モ諸大國ノ相敵對スルカ如ク絶エス互ニ戦争ヲ為セリ

問皇帝ノ大臣ト稱スルハ誰ナルヤ

答六國ノ外皇帝ノ幕下ニ属スルハボルゴンジト王プロペンス王摩拉維亞王并ニ波希米亞公等アリ

問此頃日耳曼一般ノ風俗情態如何アリシヤ

答日國一般ノ景状ハ畧前ニ述ヘタル如ク一

主上ノ下ニ若干ノ貴族アリト雖モ更ニ臣士ノ禮儀ヲ盡サス貢税トテモ納ル、一無ク刺ヘ主権ヲ蔑視シ動モスレハ甲冑ヲ裝ヒタル衆多ノ兇徒ヲ引率シテ國內ヲ横行シ人民ノ所有ヲ剽掠シ又罪無キ僧徒貴女等ヲ劫掠シ之ヲ已レノ城中ニ携去リテ牢内ニ繫置キ其親族朋友等ヨリ若干ノ償金ヲ出スニ非サレハ赦サス或ハ又貴家ノ處女ヲ勾引シテ強テ婚姻ヲ要メ其女ノ躬ニ属シタル聘物ヲ貪ラシ

トスル_一有リ斯ク乱暴ノ所業國中一般大ニ行ハル、ニ由テ縱令白晝タリトモ嚴ナル護送無キ時ハ旅行スル_一ヲ得ス殊更ニ其森林山路等ハ無難ニシテ經過シ難シトソ

問日耳曼ノ貴族等皇帝ヲ撰舉セシハ何ノ頃ニシテ誰カ始メテ撰マレタルヤ

答甲利泰甫ノ薨去ヨリ幾星霜ヲ經テチヤ_一レス、フアツト佛蘭西國路易デボニ子ルノ孫男尊稱ヲノ頃迄日國ノ狀體大約前ニ説ケルガ有テリ

如ク紛錯擾乱更ニ紀綱立ザリシガ其後日國ノ或ル貴族等ヨリシテ波希米亞公アルノルフト云ヘル國主ヲ推シテ始テ皇帝ノ位ニ即カシメ此時ヨリシテ貴族已ノ君主ヲ撰擧スルノ權ヲ持スルコトハナレリ

問此時波希米亞ノ景状如何アリシヤ

答日耳曼列國ノ一ナル波希米亞ハ此頃蒙昧ナル夷俗ニシテ斯拉法尼亞人種ナリシカ國主アルノルフハ甲利泰甫ノ血統ニシテ一層

自餘ノ貴族ヨリハ由緒アリシヲ以テ皇帝ニ撰擧サレタリ

問アルノルフハ帝位ヲ躡ミテ波希米亞ノ舊領ヲ誰ニ與ヘタルヤ

答アルノルフハ即位ノ後波希米亞ノ舊領ニスエシキホルドト云ヘル貴族ヲ封シケルガ其人不正不義ニシテ皇帝ノ恩誼ヲ忘レ却テ其臣下タルヲ嫌ヒ日國ノ紗轄ヲ脱シテ獨立ノ王タラシコトヲ常ニ希望セリ

問 恒加利國ノ起原如何アリシヤ

答 アルノルフノ後嗣ノ代ニ至リ右逆臣ノ謀
及頭然タリシカハ兼テ日國ノ邊境ヲ窺ヒ居
タル東方ノ種属ニテ匈奴ト云ヘル夷俗有リ
シガ後嗣ハ之ト俱ニ一致為シ波希米亞ヲ攻
メシコヲ計レリ匈奴ハ宿望ノ成就スル時機
ヤ来レリト踊躍奮起シテ異議無ク一味シ直
チニ波希米亞ニ攻入り許多ノ土地ヲ掠奪シ
タリシカ其地ヲ以テ後嗣ニ獻スル事トテハ

無ク却テ已等ノ所領ト為シ加之摩拉維亞ヲ
合併シテ占據ノ地トシ新ニ恒加利ノ王國ヲ
創興シタリアルノルフ薨去ノ後ハ此戦争ヲ
以テ最大ノ事件トス

問 アルノルフ薨去ノ後誰カ相續セシヤ

答 後嗣路易三世帝位ニ即クト雖モ不幸ニシ
テ未タ配偶モ無キ中ニ早世シタリケレハ紀
元九百十二年^前ニ方リテ日國ノ中ニカロ
ヒン^ビヤ家ノ血紗斷絶ニ及ヘリ

第五編

薩沙尼家系皇帝ノ事

醍醐天皇延喜十二年ヨリ
後一條天皇万壽元年ニ至ル紀元九百十二
年ヨリ千二十年
四年ニ至ル

問日耳曼國ノ分起タル發端景状如何アリシヤ

答甲利泰甫ノ後胤ニテ最モ末代ナル人君薨
去ノ以來ヲ以テ日耳曼帝國創業ノ時トス其
故ハ日國ニ於ル始テ佛國ト離テ別ニ一國ト
ナリ其國ノ政權全ク自後日國チユークノ中

ヨリ撰ム可キ君主ノ手ニ移リタルハ唯此時
ニ在ルヲ以テナリ

問皇帝ノ撰舉如何アリシヤ

答新帝撰舉ノ時ハ新ニ會議ヲ設ケ貴族僧徒
自主人ノ三等輩之ニ出席シ論議可否シテ之
ヲ決セリ若シヤ貴族等ノ中皇帝ニ撰舉ス可
キ適當ノ者一人以上ニ及フ時ハ偏頗無キ
ヲ示サンガ為メニ撰言ノ多キヲ以テ帝位ニ
即カシム右撰舉ヲ專ラ主トル者ハ其數七人

日耳曼史
卷二

メシツコロギントレ
トレフスノ教大長波希米
亞王コオロント
パラライチン
サウライノヂユ
ルク不頼的
不頼克マニ限
レルト雖トモ又其
場ニ出席シタル
衆多ノ武士ノ意望
ニ悖リ君主ヲ撰ム
事ハ七人ノ者ニモ
容易ラサルナレハ
畢竟皇帝タル者ハ
國民ノ撰ミタル者
トス

問日耳曼ノ中幾許ノ國アリヤ

答日國ノ佛國ト分レタル頃ハ前章ニ記載セ
ル各國ノ外ニ和蘭不頼的瑞西及ヒ黑斯敦チ

ユチイノ領地ヲ總括ス右ヂユチイハ連王ノ

食邑トナリ居タリ斯ク廣境ニ互レル屬國ヲ

管領シ横逆不臣ノ貴族ヲ制馭シ政令ヲ四隅

ニ施スヲナレハ其術固ヨリ庸主ノ企テ可キ

トニ非ス

問誰カ第一ニ選舉セラレテ日耳曼ノ寶位ヲ踐

ク又何故ニ其人位ニ即カサリシヤ

答今皇帝ノ撰舉ニ當レル薩沙尼公オゾ

ハ其性質尤モ柔順ニシテ謙遜辭讓君タルヲ以

日耳曼史 卷二 九 大學南交

日本書紀卷之三十一

テ斯ル大任ヲ蒙リ國政ニ関ル事ヲ深ク恐懼
シ只管衰老ノ故ヲ以テ固辞セシカ國家ノ為
メニハ聊カ仇好ヲ擇フ可キニ非スト平常宿
怨アル佛郎哥尼亞公官拉多ト云ヘル者ヲ周
旋シテ己ノ代リニ推舉セリ

問官拉多ニハ如何ナル者ヲ敵ニ受ケタルヤ
答官拉多ハオゾノ推舉ニ因リ皇帝ニ撰レ
タリシガオゾノ太子顯理此事ヲ不快ニ懷
ヒ父オゾニ於テハ縱令衰老ノ故ヲ以テ一

新編南林

且帝位ヲ辞退スト雖モ己ニ於テハ之レカ為メ
除却セラレトノ謂レ無シトシテ既ニオ
ゾ薨シ嗣テ薩沙尼公トナリシヤ否忽チ公然
ト不軌ヲ企テ皇帝官拉多ニ敵對シ戰爭ヲ起
セシカ遂ニ或ル領主ノ勸解ニ依リテ稍ク和
睦ニ至レリ
問官拉多ノ終リヲ早フセシハ何事以故ニヤ
答官拉多曾テ匈奴ノ戰爭ニテ深ク痲傷ヲ受
ケ之レカ為メニ其祚ヲ短クス

日本書紀卷之三十一 十 大島百交

田田曼武
卷二
十
方學南耕

問官拉多ハ誰ヲ後嗣ニ推舉シタルヤ

答皇帝官拉多將ニ瞑目セントスル時曩ニ宿怨ヲ忘レテ已ヲ推舉シタル恩人オ一ゾノ處置ヲ模擬シ且之カ恩德ニ報ントテ已カ仇敵タル薩沙尼公顯理剛強ノ聞エアルヲ以テ之ヲ後嗣ト定メ寶位ヲ禪ルニ適當ノ者タル由ヲ遺言ス

問顯理何年ニ皇帝ニ撰マレタルヤ

答顯理ハ世紀元九百十一年

醍醐天皇延喜十一年ノ頃ニアニ當リ其禪ヲ受タル

ケシカ此人常ニ獵禽ヲ以テ大ナル娛樂ト為

シ平常手ニ蒼鷹ヲ脱スルト稀ナリシカハ遂

ニホーレル鷹ノ縛名ヲ取レリ

官拉多一代ニ於ル國內ノ形勢ハ曾テカロヒ

ンジヤン家甲利泰甫血治國ノ時ノ如ク剽劫

奪畧ノ惡風絶エス行ハレテ國中静謐ノ日無

リシヲ以テ官拉多ニハ僅カナル在世ノ歲月

ヲ戰爭ニ費セシカ顯理ハ幸ニ戰爭ニ関ル

日本書紀卷二 土 天皇南交

ルノミニ非スシテ其利ヲ得ル者實ニ多ク縦
令全ク悪弊ノ除カサルニモセヨ其減少シタ
ルハ著シカル可シ

問國ノ兵カヲ改革スルニ如何ナル術ヲ採用シ
タルニヤ

答斯ル乱世ノ時ニ方テ强壮ノ親兵ヲ備ヘサ
ルヲ得サルカ故ニ少年タル者ハ必ス繰練ニ
習熟ス可シトノ法則ヲ出シ兵器ノ使用ヲ修
行セシメントテ常ニ曠原平野ニ往ヒテ遊樂

ヲ為サシメリ是ハ即チ其後ニ專ラ歐洲ニ流
行シタルトルナメント稱スル騎馬ノ試合
ニ彷彿タレド其儀式裝飾等ハ惣テ異ナル者
トス

問兵士ノ資用等ヲ供給スル方法如何アリシヤ
答兵士ノ資用ヲ供給スル法ハ先諸民共ニ其
長子タル者ニハ一族ヨリ乗馬武器等ヲ給シ
テ預メ之カ備ヘヲ為シ置キ一旦緩急アル時
ハ帝ノ召シニ應シテ其戍役ヲ務メシメタル

臣目曼史各

卷二

大學南交

ヲ以テ官府ニハ些少ノ費ヘモ無クシテ常ニ
熟練ノ壯兵ヲ備フルノ益ヲ得タリ又戦争ノ
起ルニ當リテ土地所有ノ者ニハ其分限ニ應
シ兵糧ヲ供ス可キ事ヲ命ス總テ是等ノ法則
ノ設ケアルヨリ皇帝ノ威權日ニ増シ月ニ熾
ナリシカトモ未夕貴族及ヒ國人等ノ動モス
レハ私戦ヲ起セルノ惡弊ヲ盡ク芟除スルノ
力足ラスシテ之ヲ禁禦スルヲ能ハサリシト
ナリ

問貴族等ノ自ラ主張スル權威ハ如何ナル者ナ
ルヤ

答貴族等戦國ノ習ヒトシテ聊ノ争ヒヨリ互
ニ私戦ニ及フヲ以テ自ラ有スル特権一ツト
思ヒ為セシニヨリ今俄カニ之ヲ廢シ難カル
可シ

問日耳曼ノ内ニ始メテ自由都府ヲ起シタルハ
誰ナリシヤ

答是ヨリ先キ日國ニ未夕設ケサル所ノ府内

日耳曼史各

卷二

十四

大學南交

二住居スル者共ノ條理次第ヲ施行シ富國強
兵ノ基礎トモ為ル可キ種々ノ方法ヲ起セシ
者ハ顯理ニシテ前ニモ見ユル如ク元來日國
ノ都府ハ古ヘヨリ今ニ至ルマテ諸匠百工ノ
ミ住居シタルニヨリ巨族大家ハ此所ニ住メ
ハ自然卑賤ナル者ト一様ニ看做サレシ
嫌ヒ住ム者無リシ此頃世人一般武職ヲ除クテ輕侮ヨリ都府繁華ナラサリシカハ顯理一
策ヲ設ケ都府ノ周圍ニ堅固ノ墻塼ヲ建築シ

日本書紀卷之六
新羅

諸民安居シテ生産ヲ營マシメントテ市街ニ
取締リノ備ヘヲ置キ此所ニ移住シタル者ニ
ハ夫々異數ノ恩賞ヲ授ケテ之ヲ獎勵シ万民
ヲシテ轉住セシメンコトヲ促セリ
問王都ノ内ニ住メル所ノ人民ニ如何ナル特恩
ヲ與ヘタルヤ
答住民ニ許シタル恩賞ノ一二ヲ舉テ言ハン
ニ先府内ニ住居スル者共ハ最早領主ノ手ヲ
脱タル者トセラレタリ又貴族僧徒ハ新夕ニ

日本書紀卷之六
卷二
十五
大學南校

市場ヲ開キ或ハ市中取締ノ為メニ集會ヲ設
クルヲ得セシメ又貨幣ヲ鑄造スルノ權ヲ
許可ス斯ク住民ニ自由ヲ與ヘシカハ戸籍モ
隨テ増セシト雖モ府内ニ住居スルヲニ就キ
毫モ嫌忌無キニ至レル迄ハ許多ノ歲月ヲ費
セルヲニテ現今住民ヲ算スル時ハ猶職夫番
兵ノ方多カリシ
府内住居ノ商賈ニ於テハ一身保護ノ為メニ
劔ヲ帶ルヲ許サミルカ故ニ番兵ノ宿營ヲ

皇朝通志

卷二

大學南校

ラザル場所ハ其所ノ取締ヲ任スル教長ノ護
衛ヲ受ルヲナリ斯ク既ニ規律整ヒタレハ都
府次第ニ賑ヒ住民自由ヲ得從前ト異ナリテ
格別ナル者トナリ更ニ人ノ之ヲ賤ムトモ無
キニ至ル可キヲ見ルニ足レリ

問顯理一世ハ其頃如何ナル君ト並立チシヤ

答顯理ホーレルニ於テハ斯ク事業著シキヲ
以テ英蘭ノアゼルスタン並ニコルドハ
部内ニ在リテ同國獨立以前ハ
名付ル人種ノ住ミ居タル都府ノ名ナリ

皇朝通志

卷二

十六

大學南校

フテルラメン三世ニ并ヒ就中英名ノ聞ニア
ル者トス

問 顯理ノ薨去ハ何年ナルヤ

答 顯理ハ紀元九百三十六年

朱雀天皇承平六年ノ頃ニアニ薨セシカハ同年

タル

ニアイラシヤール普魯士ノ古都甲利泰甫

山ノ北方廣遠ナル諸領地ニ於テ後嗣撰擧ノ

ノ總都ニ定メタル地ナリニハ曾テ甲利泰甫ノ建

會合アリ此都府ノ内ニハ曾テ甲利泰甫ノ建

立セル壯觀ヲ極メシ教長ノ禮拜堂アリ自後

是ヲ日月曼皇帝代々即位ノ場所ト定メリ
問 誰カ顯理ノ禪ニ嗣立セシヤ

答 顯理ホーレルノ嫡子薩沙尼公オージ嗣テ

帝位ニ撰レ立派ナル禮貞ヲ盡シテ踐祚ノ儀

式ヲ行ヒ殊ニ當世ハ國事多般ニシテ舉錯繁

雜ナリシニ或人此君ヲ以テ先君ヨリ一層赫

々ノ名譽アル者ト考察セシテアルハ全クゲ

レトト有功者ノ尊稱ノ尊稱アルヲ以テヨリ

其説起リシナラン尤モ此君勇悍ニシテ武技

皇朝通志卷之三

州學南校

ニ長スルカ故ニ其國家有益ナル實用ノ事業
ヨリハ多クハ唯人ノ耳目ヲ驚ス一時ノ武勇
ニ由リテ斯ル名譽ヲ得タルナル可シ
オ一ゾ即位ノ初メハ帝ニ大貴族ノ叛逆不臣
ヲ罷スルノ外他事ナカリシカ漸クニシテ一
時平穩ニ及シモ程無ク波希米亞ノ亂起レリ

問波希米亞

トノ戦争ハ何ヨリ起リタルヤ
答波國トノ戦ハ其國ノ王自ラ僭シテ獨立國
タルヲ布告シ刺サヘ巳ノ宗旨元來邪宗タル

ヲ以テ國中一般ニ耶蘇教ヲ廢絶シタルニ依
レリ

問波希米亞

ノ戦争何年ヲ經テ其結局如何ナリ
タルヤ

答波希米亞戦争殆ンド十四年間ノ久シキヲ
經タリシカ遂ニオ一ゾノ軍勝利ヲ奏シ同國
ニ耶蘇教ヲ入レテ強ヒテ之ヲ服従セシメン
トセシニ其徴効ナクシテ邪宗ハ日ニ増シ月
ニ熾ニナリ肖像信仰スル者尚モ多カリシ

皇朝通志卷之三

大學南校

トソ且波國稍クニ治安ニ到リシ頃ハ恒加利
 人數々日耳曼列國ニ來攻シ遂ニウエストフ
 アリヤノ内ニ在ルトルトマンドト云フ曠原
 ニ於テ干戈ヲ接ヘシカ恒人ハ再舉モ成リ難
 キ程ニ大敗ヲ取レリトナリ
 オーゾゼゲレートノ一代ハ國事多般ニシテ
 紛乱錯雜ヲ極メシカ就中掲ケ示ス可キ重大
 ノ事件ト云フハ以太利ノ一事トス此ノ國令
 ヲ距ル一ト大凡ソニ百十余年甲利泰甫カ治世

ノ頃其属國ノ一トシテ其後チャルレスセフ
 ワト廢位ノ頃マテモ甲利泰甫ノ血統ノ者世
 ヲ之ヲ領セシカ後ニ舊諸公等之ヲ分割管領
 セシヨリ遂ニ互ニ國王タラン事ヲ競ヒ大ナ
 ル騷乱ヲ醸セリ
 問日耳曼如何シテ再ヒ以太利ヲ合併セシヤ
 答オーゾ日國ノ帝位ニ登リシ頃以國ノ君ロ
 ザイル薨シタリシカ後嗣無クシテ唯遺レル
 ハアトライドト云ヘル美人ノ聞エアル皇后

ノミナルヲ以テ以國ノ貴族等此時ニ乘シ同
 國ノ位ヲ襲ハンコヲ企テ種々ノ謀畧ヲ以テ
 右ノ寡婦ト縁ヲ結ヒ國王タラントセシカト
 モ寡婦ニ於テハ已ニ阿諛スル諸公等ヲ盡ク
 厭ヒ更ニ承引セスシテ就中ベレンゲルト云
 ヘル貴族ノ世子ヲバ痛ク厭忌シタリケレハ
 ベレンゲルハ半ハ已カ慾心ト半ハ太子ノ耻
 辱ヲ受ケタル怨恨トニ由テ遂ニ王位ヲ篡奪
 シ寡婦アドライドヲ執ヘテ之ヲ或ル城中ニ

幽閉セリ然ルニアドライドハ斯ル災難ニ罹
 リ憂苦ニ堪ヘサリシヨリ曾テヨリ日耳曼才
 一ゾノ英名ヲ聞キ及ヒ居タリシヲ以テ此君
 ノ助勢ヲ乞フニハ若シト密カニオ一ゾノ許
 ニ言送レルニ若シヤ君ニ於テ妾ガ今日ノ憂
 苦ヲ憐ミテ速カニ肯カヒ給フニ於テハ鄙薄
 ト雖モ妾カ躬ヲ委子以太利ノ王位ヲ奉ント
 アリケレハ皇帝容易ク之ヲ領承シ直ニ強大
 ノ軍勢ヲ引率シ親ヲ進ンテ以國ニ来リ遂ニ

正史 卷之三
大正學南林

寡婦ヲ援フテ綫繼ノ辱メヲ解キベレンゲル
ノ王位ヲ禡ヒシカトモ皇帝ニハ寛宥ノ處置
ヲ以テ廢主ニ若干ノ地ヲ與ヘテ爾後日耳曼
國ニ隨從ス可キ旨ヲ命シタリシベレンゲル
ハ喜ンテ其旨ヲ奉セシカハ皇帝令ハ聊カ憚
ルヲ無ク美婦アドライドヲ携ヘ共ニ亞カ伯
山ヲ越エ本國ニ歸陣セリ然ルニオトゾ穀足
ノ後直チニベレンゲルハ前キニ為セル約束
ヲ違背シ忽チ謀反ヲ企シカハ國中_ニ力為メ

ニ騷乱大方ナラス羅馬法王深ク之ヲ憂ヒ民
ノ塗炭ヲ救ハンカ為メ再ヒ出陣ス可シト皇
帝ノ許ニ消息_{ツレ}シケレハ皇帝速カニ入来リ國
乱難無ク平定ニ及ヒベレンゲルハ其位ヲ廢
セラレタリ是ヨリシテオトゾハ自ラ羅馬王
ニ即位シテ再_以國ヲ合併スト雖_モ後其躬ニ大
難ノ由テ起ル所以ハ全ク斯ル利益ヲ獲タル
ニ依レリ

問オトゾノ創立シタル強國ハ如何ナル者ナル

正史 卷之三 世 大學南校

皇朝略
卷二
世二
大學南交

ヤ

答曰國ノ中ニ於テ始テ萊因ノパラチ子ト
是ハ國郡ノ名ニシテ此地ヲ支配スルト稱ス
者ヲコオント、パラチイント稱ス
ル強國ヲ創立セシハ即オーズゼ、グレートニ
シテ遂ニ後世此國ヨリシテ豪強ノ聞エアル
幾許ノ王族興起スルニ至レリト謂フ茲ニ又
コオント、パラチイントノ濫觴ヲ尋ルニ當初
此國內ニ在ル王宮ヲ守護スル者ノ官名ナリ
シカ時世ノ變換ニ從ヒ此職廢レ當時ニテハ

有名無實ノ者トセリテ唯一ノ貴族パラチ

チイントノ尊稱ヲ有テラル

問誰カ如何シテ第一ニ萊因ノコオント、パラチ

チイントノ職ニ舉ラレタルヤ

答元來コオント、パラチイントノ職ハ最モ尊

爵ナリシガ其職ニ在ル者頃日或ル一揆ニ左

祖シタルヲ以テ皇帝ニハ之カ爵位ヲ剥キ萊

因兩岸ニ在ル若干ノ地ハ勿論城砦ヲモ奪テ

巴華里亞公ノ男ニ與ヘシカハ是ヨリ後萊因

皇朝略
卷二
世二
大學南交

ノコオント、パラチインノ尊稱ヲハ此公世
々相襲ヒ加之婚姻ノ聘物タル地或ハ新タニ
買受タル地又ハ戦捷ニ依リ獲タル地等ヲ合
併シテ一大國ヲ為スニ至レリ

問オージ別ニ創立シタル小コオント、パラチ
インノ位階ハ如何ナルヤ

答オージ葉因ノパラチインヲ創メシ後尚
一級降レルコオント、パラチインヲ置ケリ
是ハ各、已カ居レル所ノ郡國ヲ支配スル官吏

ニシテ其領主不在ノ時ハ之ニ代リテ郡國會
合ノ長官トナレルヲ以テ大ニ權威アル者ト
ス加之又帝王ノ租税ヲ聚メ廣キ王領ノ中ヲ
モ普ク監督ス

問オージノ代ニ日耳曼ノ富饒ヲ増セシハ如何
ナルヤ

答此頃日國ノ内ハルツ山中ニ銀坑ノ有ルヲ
檢出セシヨリ大ニ闔國ノ富饒ヲ増セリ其檢
出ノ故ヲ尋ルニ全ク偶然ノ事ニシテ或農夫

山中ヲ過キ已カ牽ケル馬ヲ一樹ニ繫キ置キ
シカ馬ハ動作ノ自由ナラサルヲ憤リ嘶キツ、
蹄ヲ以テ劇シク大地ヲ爬^クルシケレハ其所ニ
一洿隙ヲ生シ何圖ラン其ヨリ銀塊ヲ蹴出シ
始メテ此地ニ礦坑ノ有ルヲ知レリ斯ル未
曾有ノ奇事ニ由リテ國家ノ利益ヲ獲ンテ著
シカリケレハ皇帝速カニ命令ヲ下シ礦山ノ
近傍ニテゴスラルト云ヘル小都邑ヲ新タニ
開キ礦夫ノ居所及ヒ掛リ官吏ノ居家等ヲ設

ケントソ

問オーゾハ何ノ頃ニ薨去シ誰カ嗣立セシヤ

答オーゾゼゲレートハ紀元九百七十三年

圓融^{タル}天皇天延元年ノ頃ニアニ薨シ世子嗣テ立

子之ヲオーゾ二世ト稱ス二世ニハ其父存生
ノ中既ニ羅馬王ニ即位セシカ其時ノ儀式ノ
中ニ爾後日國ノ寶位ニ登ル可キヲ暗ニ含
ミタリ然ルニ皇帝ヲ撰擧スルノ特権ヲ有セ
ル撰者等ハ此畧式ヲハ甚夕不快ノ事ニ思ヒ

日本書紀卷三 廿四 大學南校

長史略 卷二

撰舉ハ素ヨリ重大ノ事ナレハ宜シク舊ニ依
リテ集會ヲ設ケ前式ニ循ヒ即位セシム可シ
ト拒ンテ許サ、リシ

問羅馬人ノ自由不羈ヲ回復セント企テシハ如
何ノ景況ニシテ其後如何ナル歸結ニ至リタル
ヤ

答オーゾゼゲレート以太利ヲ合併セシヨリ
羅馬人ハ日耳曼皇帝ノ管下トナリシカドモ
常ニ其所轄ヲ脱ンテヲ希望シアリケルカ此

ニ至リテ密カニ以國ニ共和ノ獨立ヲ設立ス
ルノ企アリテ徒黨ヲ結シニ不幸ニシテオー
ゾニ世為メ見露サレリ此時オーゾニハ憤怒
ノ餘實ニ万乘ノ至尊ニハ最モ稀ナルサンゴ
ナリイ殺スラノ惡名ヲ取リタル如キ虎狼殘
忍ノ處置ニ及ヘリ茲ニ其顛末ヲ舉ニニ是ヨ
リ先ニオーゾハ羅馬ノ者共ノ叛逆ノ企謀ア
リシヲ夢ニタモ知ラサル様ニテ或時酒宴ヲ
設ケ重立タル羅馬ノ貴族等ヲ招待セシカ逆

日事略 卷二

大學南校

謀ニ一味セサル者ハ勿論之ニ加リタル者モ
謀計トハ知ラスシテ常ノ如クニ來問シテ酒
宴ノ席ニ就キケルカ酒宴半ハニシテオトゾ
ハ突然ト其坐ヲ起チ何カ暗號ヲ為セシニ一
群ノ兵士忽チ頭レ出テシカハ坐客ハ之カ為
メニ愕然恐怖セリ皇帝頓テ一封紙ヲ取出シ
之ヲ開テ一味連判ノ人名ヲ高聲ニ讀ミ上ケ
其本人ヲハ直チニ坐席ヨリ引立テ盡ク皇帝
ノ面前ニ於テ縊殺セシメタリ後ニ残り居タ

ル客ハ是等ノ景状ヲ目撃シテ大ニ戦慄シ唯
茫然タルノミ皇帝ニハ再ヒ酒宴ヲ開カント
其席ニ就タリシカ此時坐客ノ中一人トシ安
ンシテ飲食シタル者ハ無カル可シトソ
問オトゾ暴行有リシ後以太利ニテ其身ニ如何
ナル事ノ起リシヤ

答其後幾程モ無クオトゾハ往ニ撒拉先人并
ニ希臘人等ノ侵掠シタル以太利ノ一部ニテ
カラブリヤト云ヘル土地ヲ回復セントテ大

軍ヲ引率シテ以國南部ニ入攻シ此軍勢半ハ
日耳曼人半ハ以國人ヲ以テ編成シタル者ナ
ルカ以國人ニ於テハ皇帝ノ曾テ羅馬貴族ニ
對シ殘忍ノ所置ヲ為セシトテ深ク憤リ各宿
怨ヲ抱キ居タリシニ由テ此役ニ復讐セント
計リ戰爭ノ機會ヲ窺ヒ遂ニ敵ニ款ヲ通シ撒
拉先人へ戮カ同心シテ日人ヲ劇シク攻撃シ
タリケレハ日人大ニ敗走シ遂ニ盡ク殲殺セ
ラレ唯皇帝ノミ辛クシテ海濱迄逃レ時ニ此

處ニ繫キ有リタル小船ニ飛乗り直チニ走ラ
セシカ不幸ニシテ海賊ニ遇ヒ其船ヲ奪ハレ
身虜トナリタリ是時オーゾ以為ラク徒ラニ
海賊ノ手ニ在ル時ハ必然彼カ奴隸タラン
ヲ察シ直チニ水中ニ飛入り波浪ヲ凌キ稍ク
生命ヲ全フシテ本國ニ歸來レリ

問オーゾ晩年ノ景状ハ如何アリシヤ

答前件以來オーゾノ代ニ起リタル事件ハ波
希米亞人ト日耳曼列國ノ邊境ノ諸國トノ戰

争アリシノミナリ

問オ一ゾ二世ノ薨去ハ何レノ頃ニシテ誰カ之ヲ嗣キタルヤ

答オ一ゾハ紀元九百八十四年

圓融天皇ノ永觀元年ニアタニ薨去シ其男オ一

ゾ三世總カ十二歳ノ幼稚ナリシカ皇帝ノ位

ニ撰擧サレタリ

問誰カ攝政ノ任ニ居リタルヤ

答曩ニオ一ゾ二世踐祚ヒ頃其堂弟巴華里

公顯理ナル者嫉妬ノ心深クシテ大ニ此撰擧

ヲ妨ケシニ因リ其食邑ヲ沒收シ之ヲ蘇亞維

亞公ニ與ヘタリシカハ蘇國ハ強大ヲ極メ又

既ニシテ顯理ニハ其領地ヲ失ヒシヨリ憤怒

ニ堪ヘス噍馬王ハロルドノ助勢ヲ得之ヲ回

復セント謀リシカ其事遂ニ成ラス然ルニ今

オ一ゾ三世嗣立ノ時ニ當リ顯理再ヒ奮起シ

自ラ攝政ノ重權ヲ篡ヒ舊領巴華里ニ據レリ

オ一ゾ三世ハ俊才明哲ノ君主ナリシガ在位

皇朝通志 卷二

冊

ノ間自國ノ事ニ付キ利益ヲ取リシヨリハ以
太利ニテ得タル者多シ

問オーゾ三世ノ代最モ著明ナル事件ハ何ナリ
シヤ

答此頃波蘭ヲ撰ミテ王國ノ列ニ加シ事トス
問是ヨリ前波蘭ノ景状ハ如何ナリシヤ

答是ヨリ往ニ波蘭ハ日耳曼皇帝ノ管下タル
諸公ノ所轄ニシテ此所ノ住民開化無キハ波
希米亞人ト大同小異ナル者トス

問何故ニ波蘭ヲ以テ王國ノ列ニ登セシヤ

答波蘭當今ノ國君ハ更ニ教化ナカリシカ天
資材幹ノ名望アル者ナレハ皇帝モ之ヲ聞及
ヒ偶此國ニ尋問ヒシカ領主ノ待遇頗ル丁寧
ナリシヲ大ニ悦ヒ異數ノ恩典トシテ此國ヲ
新クニ王國ノ列ニ加ヘ國主ホレスラスニ王
者ノ尊號ヲ與ヘタリ斯ク波蘭獨立國ト成レ
ト雖モ猶皇帝ノ從屬ニ在テ絶エス貢稅ヲ
納レ臣下ノ礼ヲ盡シヌ

皇朝通志

卷二

廿九

大學衍義

問誰カオージ三世ニ相續セシヤ

答オージ三世ハ其在位凡ソ十九年ニシテ前攝政巴華里公ノ男顯理嗣ヒテ帝位ニ即ク是ハ薩沙厄家ノ最モ末裔ノ者トス

問波蘭ノ新王ハ何等ノ故ヲ以テ日國ニ騷乱ヲ起セシヤ

答顯理ハ令徳ノ聞エ有ル國君ナリシカ在位ノ間不幸ナルヲ共多クシテ就中波蘭ノ騷乱ヲ以テ第一トセシカ今ニ至リテ同國々新君

顯理ニ朝覲ヲ為サス又毎歳ノ貢稅ヲ納レス飽マテ波蘭獨立ノ基礎ヲ堅フセシテ需用シ聊カ屈スル色ナカリシニ由リテ遂ニ悖逆騷乱ヲ企テ數年ノ戰爭トナレリ其間波蘭王ホレスラス波希米亞公ヲ其國ヨリ放逐シ自ラ代リテ國主トナリ又數兵ヲ以テ普魯士ニ侵入ス

問普魯士人ハ如何ナル者ナルヤ

答此頃普魯士國ノ人民ハ波蘭ト波羅的海ト

ノ間ニ在ル荒漠ノ土地ニ居住シタル一種野蠻ノ夷俗ニシテ羅馬人ノ時ニハ普人ノ一名ヲアエヌチト呼ヒタリ此頃普人ニハ海底ニ潜入シ許多ノ琥珀ヲ獲ルヲ以テ生業トシ之ヲ羅馬人ニ販賣セシカ羅馬人ニハ殊ニ之ヲ好ミテ盞器ニ用ヒタルヲ以テ其賣取ノ高頗ル夥多ニ及ヘリ又國民昔日ニ比スレハ當時ハ毫モ開化ニ進マザリシカ元來性質剛強ナルヲ以テノ故ニ外寇防禦ノ時等ニハ往昔

ヨリ各身命ヲ擲チテ國家ヲ守護ス
 日耳曼ノ國內戰爭交起リ靜謐ノ日無リシヨリ人心洶々タリシカ皇帝顯理ハ其性質沈重温和ナルヲ以テ常ニ神祇ノ祈念等ニ身心ヲ委子更ニ武威ヲ耀ス_一ヲ好マス因テ國乱ヲ厭ヒ在位ノ間ハ遂ニ世ノ治安ヲ得難キ_一ヲ察シ其位ヲ遁レテ或ル寺院ニ退隱セン_一ヲ計リケルカ會教長ノ諫メニ依リ已ムヲ得ス思ヒ止リテ紀元千二十四年

一條天皇萬壽元年ニアタル

ノ時マテ其世ヲ

有テリ

問題理二世薨去セシ後國ノ帝位如何ニ變換セシヤ

答日耳曼皇帝ノ系紗薩沙尼家ヨリ出テタル者顯理ホーレルニ始リ顯理二世ニ至リテ絶子無ク遂ニ家系斷絶シ其ヨリ帝國ノ寶位官拉多ヲ初メトシテ弗郎哥尼亞家ニ遷リタリサレ氏其次第八姑ク舎テ論セス今茲ニ紀元

九百年間ニ至ルマテニ遡リテ印國ノ景况ヲ論述セント欲ス

第六編

紀元九百年ヨリ千年間ニ至ル日耳曼ノ事

醍醐天皇昌泰三年ヨリ堀河天皇康和二年ニ至ル

問千年前日耳曼ト英蘭トノ國躰ヲ比較セハ其開否如何アリシヤ

答紀元九百年ヨリ千年ノ間日英兩國ノ景状

ヲ比較スルニ封建ノ制度等ニ至リテハ日國
 頗ル大成ニ及フト雖モ英國ニハ其頃連馬國
 ノ生レナルカニウトノ時代ニシテ未タ此制
 度ノ設ケアルヲ聞カス其後維廉コルケノ
 代ニ至リテ始メテ日國ノ如ク大成ニ及ヒシ
 トゾ

問日耳曼國一般ノ風俗ハ如何ナリシヤ

答日國一般ノ人民次第ニ開化ニ進ミシヨリ
 許多ノ都府モ益富饒ニ赴キ商業モ漸ク繁盛

ニ至リ遂ニ舊法ノ制限ヲ免レ各一身自由ノ
 權利ヲ得ルトハナレリ

問日耳曼ノ都府ノ數ハ幾許有リシヤ

答日國ノ都府ハ第三等ニ區別ス

問皇都ハ如何ナル者タルヤ

答皇都ハ第一等ノ者ニシテ王領ノ内ニ設ケ
 タル都府ナリ即チ其創立ノ原由ヲ尋ルニ顯
 理ホーレルノ代ニ初メテ起リタル者ニテ此
 地ニ住メル者共ニハ顯理ホーレル并ニ世嗣

等ヨリシテ萬事寛大ノ處置ヲ施シ許多ノ特
恩ヲ授ケ住民ノ自由ヲ得セシム故ニ一名自
由都府ト號ス

問公都及ヒ其住民ノ景状如何ナルヤ

答公都ハ第二等ノ者ニシテデュークノ領内ニ
設ケタル都府ナルガ是等ハ總テ皇都ニハ関
係無キ封建ノ制度ヲ循奉セサルヲ得ス此所
ニ住ム者ハ貴賤共ニ悉クデュークノ臣下ナル
ヲ以テ常ニ領主ノ命令ヲ循奉シ猥ニ他邦ニ

轉移スルヲ能ハス又租税ヲ出ス可キ命令ア
レハ速ニ之ヲ納メ或ハ婚姻及ヒ産物ノ販賣
等ニ至ルマテ其許可ヲ待タスレテ私ニ行フ
ヲ能ハス加之ニ種々ノ物品ヲ販賣シタルニ
於テハ其利潤ノ多寡ニ應レテデュークニ多少
ノ税金ヲ納ルヲナリ斯ク公都住民ノ景状自
由ナラサルヲ見テモ皇都ニ住ム者ノ安寧ニ
若カサルヲ知ルニ足レリ

問皇都ノ住民何事モ皆自由ヲ得可キトニヤ

答皇都ノ住民ト雖モ婚姻ヲ結フ時ハ其父母
 随意ニ之ヲ嫁娶スルヲ能ハス其故ハ皇帝夕
 ル者府内大家ノ男女ヲ媒妁スルノ權ヲ有シ
 其事ニ関スル每ニ其効トシテ幾許ノ利益ヲ
 得ルヲアレハナリ爰ニ人アリテ或ル富家ノ
 贅婦タラシテ皇帝ニ願ヒ其事成就スルニ
 於テハ之ニ報ルニ自ラ公役ヲ務ムルカ又ハ
 若干ノ金額ヲ納ルトシ皇帝其願ヲ許諾シ
 一旦之カ父兄ニ其旨ヲ説得スル時ハ誰ニテ

モ之ヲ拒ムヲ能ハス是等ノ事固ヨリ王者ノ
 所為ニ非ラスト雖モ此頃ノ習ヒトシテ更ニ
 之ヲ異シム者モ無シ然レモ皇帝ノ此權ヲ行
 フハデユーク平常スル所為ヲ以テ射利ノ一
 端ト為スカ如キ者ニ非サレハ敢テ婚姻ヲ強
 ル等ノヲハ之無シ既ニ其約束ノ定ル時ハ官
 府ヨリ某女某男ニ嫁スルト云ヘルヲ市中
 ニ布告シ明年ニ至リ前年布告セシ日ヲ待テ
 婚禮ノ式ヲ行フニテ此時親族朋友ノ輩來

集シテ之ヲ賀シ其祝儀トシテ金銀牛馬ノ類
 ヲ寄贈セリ又新婦ハ嫁シタル翌日ニ良人ヨ
 リ若干ノ贈金ヲ受ケ得テ之ヲ懇親ノ者ニ託
 シ置キ一朝良人其世ヲ辞スルノ不幸ニ遇フ
 時ハ之ヲ以テ扶助金ノ一助トナスト一般ノ
 風儀ナリ其受ル所ノ金高ハ貴賤ニ由リテ自
 ラ差等アリト雖モ大抵之ヲ缺クテ無シ
 問何ノ都府ヲ以テ第三ト為スヤ
 答第三ハ寺領ノ都邑ニシテ此地ハ教長ノ管

轄ニ属シ住民何モ教長ノ威權ヲ遵奉ス之ヲ
 公領ノ住民ニ比較セハ百事寛ナリト雖モ皇
 都ノ住民ノ如ク種々ノ恩澤ニ浴スルヲ無シ
 問此頃日耳曼ト英蘭トノ交際如何ナルヤ
 答此頃兩國ノ貿易頗ル盛ニシテ常ニ日國ヨ
 リ倫敦ニ商船數艘ヲ以テ許多ノ物品ヲ運漕
 シ之ヲ陸揚ケスル時ハ必ス倫敦ノ内ビール
 リニスゲートト云ヘル所ノ運上所ニ稅品ヲ
 納メリ

問 稅品ハ如何ナル物ナルヤ

答 大約稅品ハ一艘毎ニ灰色ノ衣類ニ、棕色ノ衣類一、皆表衣胡椒十磅我九百九十手對、醪酢ニ瓶等ナリ胡椒ハ英國ニ甚夕少夕手套ハ此頃日國ノ製品ニシテ未夕英國ニ有ラサルモノトス

問 日月曼國內ノ商買ノ景状ハ如何ナルヤ

答 日國諸都府ノ中ニハ各市場アリシカ諸商百工ト雖モ猥リニ開舖ミセビキスルヲ得ス先ッ此所

ニ住セントスル時ハ恰モ方今ノ倫敦ニ於ルカ如ク許多ノ市制ニ循ヒテ定約ヲ遂ケ然ル後住居ス故ニ官許無キ者ハ郭外ニ住シ府内ノ住民ヨリハ較下等ノ商業ヲ為スモノナリ問 市民次第ニ自由ニ赴キシハ何等ノ故ニ由レルヤ

答 此頃府内ニ住スル者ハ帶劔ノ許可無ク又政ヲ執ル可キ官吏ヲ已等ノ中ヨリ推舉スルヲ能ハス然レ氏次第ニ不羈自由ニ赴キシ所

以ハ市民等專ラ會社ヲ結ビ互ニ患苦ヲ嘗ク損益ヲ共ニスルト又奴隸ノ身分一變シタルトニ依レリ

問奴隸ノ身分一變シタルハ何ノ故ナルヤ
答僧徒ハ奴隸ヲ驅役スルヲ以テ宗旨ノ教ヘニ戾レルトシテ第一ニ此事ヲ廢シ博ク諸民ノ軌範トセントテ奴隸ヲ盡ク赦シテ自由ヲ與ヘシカハ國中ニモ次第ニ減スルトナレリ

問猶奴隸ノ減少シタル其他ノ原由ハ如何

答奴隸減少シタル他ノ原由ト云フハ奴隸タル者力役ヨリシテ多クノ錢ヲ獲タル時ハ之ヲ少シツ、分與シ後積ニテ若干金ト為ルニ至レハ此金ヲ以テ償身ヲ為スヲモ許シテ敢テ拒ムヲ無ケレハナリ

問此法ノ舉行セシヨリ如何ナル益アリタルヤ

答此法ノ行ハレシヨリ自由者ト奴隸トノ區別一變シ自由者ハ斯ク奴隸ノ善ニ遷ルヲ見

テ美事ト為シ奴隸モ亦緊要ノ活路ヲ認メ得
 タルヲ以テ喜悦ヲ為シ勉メテ其業ヲ勵ミ速
 カニ苦域ヲ脱レントセリ是ヨリ後奴隸タル
 者既往ト異リテ自己并ニ一族ノ為メ産業ヲ
 營ミ人間一般ノ權ヲ有スルトナレリ
 問奴隸ヲ脱タル者ハ又如何ナル産業ヲ為シタ
 ルヤ

答奴隸一旦身ノ自由ヲ得テ自主人ト同等ト
 ナレハゲユークノ領内ニ來テ舗ヲ開キ百工

日ノ職及ヒ家什ノ製造等ヲ以テ産業トス
 問日耳曼ニ於テ全ク奴隸ノ絶エサルハ如何ナ
 ル故ニヤ

答日耳曼人次弟ニ開化ニ進ミ凡ソ人トシテ上
 下ノ差別無ク自由ノ權有ルトヲ漸ク知ルト
 雖モ斯ス加拉窩尼亞人ス連馬人并ニ其他ノ者ト
 ノ戦争ニテ生擒シタル者ヲハ梅略メ梭堡スノ奴
 隸市場ニ於テ賣鬻シ之ヲ耕夫トシテ使役ス
 ルノ風俗猶未夕止マサリシハ實ニ歎息ス可

日耳曼史畧卷二終 附錄 日耳曼史畧卷二終 附錄 日耳曼史畧卷二終 附錄

敬兌書肆

三家村	出雲寺	紀伊國	和泉屋	和泉屋	山城屋	須原屋
佐平	萬次郎	源兵衛	市兵衛	金右衛門	佐兵衛	茂兵衛

